

# 20歳以上4割「運動不足」

## 県調査 意欲向上へ施策検討

県民のスポーツに関する意識調査の結果、約4割の県民が自分自身の運動不足を大いに感じる一方、体力に不安を感じていることが、県の調べでわかった。こうした実態をもとに、県は、県民のスポーツ意欲を高める施策を検討していく考えだ。

調査対象は20歳以上の県内在住者199人で、173人(87%)から回答があった。自分自身の運動不足について、39%(67人)が「大いに感じる」、36%(62人)が「ある程度感じる」と答えた。自分の体力については、38%(66人)が「不安がある」と答え、「自信がある」と回答したのは9%(15人)にとどまった。

国のスポーツ振興基本計画では週1回以上のスポーツ実施率について、目標値を50%に掲げている。今回の調査では、週に1、2回が24%(41人)、週に3回以上が18%(31人)の計42%にとどまり、国の目標値を下回った。

スポーツをしにくいと「感じたことがない」と回答したのは23%(40人)にとどまった。「感じたことがある」と答えた人の主な理由(複数回答可)は、「仕事などで忙しい」(38%)、「機会がない」(30%)、「仲間がいない」(28%)、「金がかかる」(同)など。

また、自治体に期待するスポーツ振興の取り組みとしては、〈1〉年齢層にあったニュースポーツの普及〈2〉スポーツ行事などの開催〈3〉地域のスポーツクラブやサークルの育成——などが上位を占めた。

県教委スポーツ健康課では「スポーツをしたくても踏み出せない県民が潜在的にいることがわかった。県民がスポーツ実施率を高める側面支援をしていきたい」としている。

(2008年3月2日 読売新聞)